



こころのはな



ぼくのおばあちゃん～家族愛・家庭生活の充実～

おさむは、おばあちゃんと同じ習字教室に通うことを快く思わないだけでなく、腕を上げたおばあちゃんを家族全員がほめたことに不満を抱きます。しかし、目の病気になり、医者から習字の練習も新聞を読むこともいけないと言われ、習字の練習ができないおばあちゃんの姿を目の当たりにしたおさむは、書けないおばあちゃんの代わりに習字の練習を始め出すというお話です。

授業では、おさむがおばあちゃんの代わりに字の練習をしたのはどんな気持ちからかということを考えました。おばあちゃんに対するおさむの気持ちを考えることを通じて、自分が家族の一員としてどんな役に立てるのか考え、家族で協力し合って家庭を明るくしていくことの大切さや、家族の一人ひとりがそれぞれの立場を尊重し合い、よりよい家庭を築くために自分には何ができるかを考えることができた良い機会になりました。



振り返りから

- おばあちゃんからいろいろ言われて、しつこいと思うこともあったけど、自分のことを想って言ってくれているのだと思いました。そんな想いを、ありがとうと思って聞きたいと思いました。
- お母さんが悩んでいたらとても心配をします。そんな時に自分が頑張っているのを見せてあげて、笑顔になったらいいなと思いました
- 家族にもそうだし、友達にも元気づけることができればいいなと思いました。
- 妹が頑張っていると、「負けないぞ」という気持ちになります。お互いに応援し合っていたらいいなと思います。
- 家族と励ましあうのが増えていったらいいなと思いました。僕から何かできないか考えたいです。